

## 九州大学法学部ニュース : 第24号

<https://hdl.handle.net/2324/2200420>

---

出版情報 : 法学部ニュース. 24, pp.1-, 2018-03-31. Kyushu University Faculty of Law  
バージョン :  
権利関係 :



# 九州大学

KYUSHU UNIVERSITY

- 大学院法学研究院
- 大学院法学府
- 法学部

法学部ニュース第24号

2018年3月31日 九州大学法学部広報委員会

## 2017年度 学位記授与式(卒業式)

2018年3月20日に、2017年度九州大学学位記授与式（卒業式）が執り行われました。  
卒業者は法学部185名、修了者は法学府13名です。



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



学部卒業式



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会



卒業祝賀会

# 卒業にあたって

鶴田 侑希

法学部総代・九州電力



九州大学法学部に入学したあの日、実は九州大学の学生になることに喜びはありませんでした。第一志望ではなかったからです。しかし今では胸を張って言えます。九州大学法学部に進学し、晴れて卒業生の一員となれたことが誇らしいと。

入学してから4年、私はこの大学で様々な経験をしました。座学形式の講義はもちろん、海外研修の機会に積極的に参加し、学生寮での活動も行いました。中でも「九大の世界展開力強化事業」では、河野先生、五十君先生をはじめとする先生方のご指導の下、アジア四カ国の優秀な学生と世界遺産や文化政策について学びました。毎週のゼミ、アジアの学生の日本受入、そして海外研修を繰り返した二年間は、英語の苦手な私にとってはつらい経験でもありました。しかし、法律や政治を国際社会のうねりの中で捉え、考えることができるようになる素晴らしい機会でした。また、小島先生による知的財産法のゼミでも常にフィールドワークを意識して法を学び、社会と法との繋がりを理解していきました。加えて、論理的思考力も鍛えられました。さらに四年生後期には台湾大学への交換留学を実現させました。台湾法は日本の旧民法、旧刑法を元にした部分も多くありますが、独自の発展を遂げた部分もあります。台湾大学で法を学ぶなかで、改めて、法は法だけでは存在しておらず、社会の中にあるのだと強く意識することになりました。

ここで忘れてはならないのが人間関係です。大学生活の中で、国内外で様々な方と出会いました。海外で知り合った考え方も文化も違う友人たちは私に常に刺激を与えてくれますし、国内で知り合った友人たちは授業で会うだけでなく自主学習を一緒にしたりプライベートでも旅行に行ったりしました。大学のゼミやクラスでの出会い、寮での出会い、全てがかけがえない財産です。

九州大学法学部に進学しなければこのような機会は得られなかったでしょう。座学一辺倒だった私が世界に目を向け、幅広い視野を得られたのは間違いなく大学での成果です。

最後になりますが、先生方、九州大学の職員の皆様、地域の方々、友人、そして家族など多くの方に支えられてここまで来ることが出来ました。本当にありがとうございました。これからはOGの1人となり、社会に貢献していきます。今後ともよろしくお祈りします。



「台湾大学の中国語クラスにて」

## 「法学府 学位記授与式」



# 箱崎キャンパス・伊都キャンパス 比較

2018年8月より、いよいよ九州大学法学部は、箱崎キャンパス（福岡市東区）から伊都キャンパス（福岡市西区）へと移転します。

伊都キャンパスでは、学生のための自習スペースがたくさん用意され、大学の中央図書館が文系地区（イーストゾーン）に設置されるなど、法学部生の学修環境がいっそう改善されることが期待されます。

二つのキャンパスの特徴を、写真で比較してみましょう。

## 箱崎キャンパス



50周年記念講堂



書籍部



食堂



法学部棟



3F閲覧室

## 伊都キャンパス

**NEW**



椎木講堂



校舎内観



食堂 QASIS



キャンパス外観



図書館1階 閲覧席

# 国際記念物遺跡会議（イコモス）会長に就任して

## 河野 俊行教授

1986年、九州大学法学部助教授として赴任。現在、九州大学大学院法学研究院教授、九州大学主幹教授、九州大学 LL.M./LL.D.（法学府国際コース）プロデューサー。2017年より、国際記念物遺跡会議（ICOMOS）会長。



日本イコモス国内委員会の石井委員長（当時）から「イコモスという団体だが、今度法律の委員会ができるので、入会してその委員会に入ってほしい。でも旅費は出ない。」という趣旨のお電話をいただいた。何やらよくわからない団体だし、翌年ベルリンでの在外研究が決まっていたので、それを理由にお断りしようとしたところ、「それはいい、一回目の会議がワイマールであるので」と言われてしまった。断れない性分である私のイコモス入会がこうして決まったのは1997年だった。

当時は、「日本イコモス国内委員会総会」出席時に、偶然通りかかった方が総会の看板と私の顔を見て、「これは宗教団体ですか」と聞かれたほど、世界遺産もイコモスも人々の関心から縁遠かった。昨年12月の私のイコモス会長選出を、一度ならず新聞各紙に取り上げていただいたが、文字通り隔世の感がある。

イコモスは、1965年にポーランドで設立された国際NGO（非政府機関）である。現在はフランス法上の団体で、パリの郊外に本部がある。よくユネスコと勘違いされるが、関係は深いものの別組織である。政府機関ではないので、極めて貧しい。現在153カ国に1万人を越える個人会員があり、大学の研究者、コンサルタント、建築家、法律学者、景観デザイン家など、極めて多様な専門性をもつメンバーで構成されている。

イコモスの活動の中で、一番注目を集めるのは世界遺産に関する仕事であろう。ただ日本のマスコミ報道は不正確なことがあり、「ユネスコが世界遺産の登録を決定する」とか、「ユネスコが勧告を出した」とか書かれることがあるが、正確には、「ユネスコの諮問機関であるイコモスが勧告を出して、世界遺産委員会が登録を決定する」ということになる。あくまでユネスコは同条約の事務局にすぎない。

しかしイコモスにとって世界遺産はその仕事の（重要

ではあるがあくまで）一部に過ぎず、実はもっと地味な仕事にイコモスの価値があると考えている。地震で大きい被害を受けたカトマンズ（ネパール）やバガン（ミャンマー）で修復に携わったり、パレスチナで人材育成の仕事をしているメンバーなど、数え上げればきりがなし。私事にわたるが、私も鞆の浦の保存やブータンの文化遺産法整備を支援してきた。世界の数多くの文化遺産はイコモスメンバーによって支えられているといっても過言ではないと思う。もう一つ重要な仕事を挙げるとすれば、文化遺産保存のための基準作りや理論開発がある。いわば知的インフラ作りといってもよいかもしれない。

会長に就任して4か月が経過したが、もう1年は十分働いた気になるくらい仕事は多彩で大量である。海外出張は過密スケジュールであり、日本にいても夕方から深夜にかけて、会議システムを用いた諸外国の同僚との打ち合わせ会議があり、毎週4回を下らない。読むべきドキュメントの量は副会長時に比して数倍に膨れ上がった。報酬も旅費も出ない中で、これができるのは、文化遺産を守るという志を同じくした諸外国の同僚たちと協働できる喜び故である。しかしこれとても九州大学及び法学研究院のご理解とご支援がなければ叶わないことである。特に記してお礼を申し上げたい。



「箱崎キャンパス惜別の会（2018.3.24）にて講演の様子」

## ミュンヘン大学との共同シンポジウム

平成 30 年 3 月 1 日から 11 日にかけて、ミュンヘン大学との共同シンポジウムのため、学部生 8 名と国際コース大学院生 3 名、教員 2 名でドイツ・オーストリアを訪れた。

同共同シンポジウムは 2007 年以來、Law and Behavior をテーマにドイツと福岡にて交互で実施しているものであり、平成 29 年度は九大からドイツを訪れる年であった。今回、従来からミュンヘン大学で中心となって同プログラムを運営している Wittig 教授の提案で、キーム湖に浮かぶフラウエン島の修道院に合宿して、シンポジウムを開催することとなった。キーム湖はミュンヘン郊外の風光明媚な避暑地で、ルードヴィヒ 2 世がベルサイユ宮殿を模して建てた城の建つヘレン島が有名だが、2 番目に大きな島フラウエン島には中世以来の女子修道院がある。春とは名ばかりの雪と氷の残る静謐のなかで、共に学び、ミュンヘン大学スタッフからの行き届いたもてなしを受けた。

学部生は 2 人 1 チームでそれぞれ「NHK 受信料」「嫡出推定」「再婚禁止期間」の最高裁判決、「君が代不起



立問題」を取り上げ、アソシエイツの支援を受けつつ、プレゼンを作って報告し、好評を得た。中には直前まで準備を重ねたグループもあったが、最終的には満足のいくできであったと思われる。

このほか、さらに足を伸ばしてザルツブルグを訪れ、Rainer 学部長主催のシンポジウムで引率教員から日本法に関する講演を行ったほか、古くは枢機卿座であった法学部の建物や図書館を見学した。また、ミュンヘンでは、LL.M. 同窓生でありドイツの老舗書店 Hugendubel の共同経営者である Hugendubel 氏の尽力で、同書店にてワンデイ・インターンシップを行った。ドイツの書店に勤務するには 2 年間の専門教育を受けなければならないことや、図書に関する法律が数多く存在することなど、多くを学び、ドイツ人の働き方を垣間見ることができた。さらに、ミュンヘン大学 Platschek 教授により直々にミュンヘン大学の案内を受けるなど、例年にも増して充実した研修となった。

学生にはこの研修での経験を今後の勉強の糧として欲しい。



## 東京研修旅行

井上武史ゼミ（憲法）では、2017年11月28日から30日に東京研修旅行を実施しました。憲法の授業では国会などの国家機関の組織や任務について学びますが、それはあくまでも書物の上でのことです。研修旅行では、憲法に関する機関や組織を実際に訪問し、そこで勤務する職員の方々とふれあうことで、現実の働きや機能を体得することを目的としています。

昨年は9名のゼミ生とともに、1日目にNHK 渋谷放送センター、有斐閣本社を、2日目に衆院法制局、読売新聞東京本社を、3日目に衆議院議員会館（濱地雅一事務所）、自民党本部をそれぞれ訪問しました。

NHKではまず社員食堂で昼食をとったあと、朝の情報番組「あさイチ」のスタジオを見学させていただきました。私たちが訪問した時は、ちょうど翌日のリハーサル中で、司会の有働由美子アナウンサーが進行する風景を目の当たりにして、一同緊張感でいっぱいでした。でもディレクターの方がとても気さくな方で、「誰か一人、ゲスト席に座ってもいいですよ!」と言ってきて、ゼミ生がリハーサルに参加するという思いがけない一幕もありました。

衆議院法制局では、国会議員の立法補佐の仕事の説明を受けました。学生たちは、国の法律の制定に携わることのやりがいと責任感を感じ取って入るようでした。説明会後は、国会内部を案内してもらい、いつもテレビで見る委員会室や控室にも通してもらい、立法の現場を自らの目で見ることができました。

衆議院法制局とは、6月に私の授業の一環で、職員の方にゲストスピーカーとして講演に来ていただき、また年明けの1月に箱崎キャンパスで業務説明会を実施してもらうなど、つながりをもってきました。今後、法学部からも衆議院法制局を目指す学生が出てきてほしいと願っています。

東京研修の目的の一つに、地元選出の国会議員を訪ねることがあります。今回は、比例九州ブロック選出の濱地雅一衆議院議員を訪ねました。濱地議員は元岡



国会議事堂：国会議事堂にて記念撮影

小学校のご出身ということで、九大生にも親近感をもって接していただきました。また、国会開会中のお忙しいときにもかかわらず、予定時間を超えて対応していただきました。安全保障の問題をはじめとして、現在国が直面する内外の課題や将来の展望を語っていただき、学生たちは国会議員という仕事のスケールの大きさを感じたと思います。

このほか、法学部生におなじみの有斐閣では編集担当の方々から六法や雑誌の編集の話がうかがえました。また、読売新聞では32階の皇居を望む素晴らしい景色のレストランで、記者の方々と懇談しました。何れの職員の方々も、自らの仕事にプライドをもって取り組んでおられたのが印象的でした。その方々の仕事ぶりにふれて、ゼミの学生の一人でも東京という国の中枢で働くことに憧れを抱いてくれたとすれば、教員としてうれしい限りです。

また、初日の夜、法学部東京同窓会の方々と懇親会を行いました。事務局長はじめ4名の卒業生の方々を囲んでの楽しい会が開かれました。先輩たちが東京で活躍されている姿を見るのも心強いものです。東京同窓会の皆様には、毎年、このような懇親会を開催してください、心より御礼申し上げます。



「あさイチ」：NHK「あさイチ」のスタジオにて



濱地事務所：濱地雅一衆議院議員との懇談

# 駐日ポーランド共和国特命全権大使の ヤツェク・イズイドルチク氏をご来訪されました

2017年10月5～6日に、駐日ポーランド共和国特命全権大使のヤツェク・イズイドルチク（Jacek Izydorczyk）氏が、村上裕章法学研究院長および久保千春九大総長を表敬訪問されました。

イズイドルチク氏は、ポーランドの裁判官国家試験に合格された後、2005年から2007年にかけて、日本政府文部科学省奨学生として九州大学法学部に留学されました。その後、出身大学であるウッチ大学法学部の教授等を歴任された後、2017年より上記大使に就任されています。

今回は、かつての学び舎である法学部キャンパスに、奥様とご子息（12歳）を同伴されてのご来訪となりました。



「村上研究院長、土井教授と」



「久保総長と」

## OB・OG紹介

京都府健康福祉部障害者支援課 課長 南 孝徳

みなさん、こんにちは。私は、平成16年卒業の南といいます。大学では、憲法ゼミ（南野先生の1期生）に所属していました。私は、熊本県立済々黌高校出身で大学まで2年間九州を出たことがありませんでした。就職についてはいろいろと悩みましたが、大学までにいろいろな経験をする中で、国全体の仕組みづくりに携わりたいと思うようになり、国家公務員を目指し、平成16年に国家公務員I種試験（現在の総合職）に合格し、官庁訪問を経て、厚生労働省に入省しました。

厚生労働省は、保険、年金、福祉から働き方改革まで皆さんの生活の多くの場面に関わっています。その予算は、少子・高齢化の影響もあって毎年伸びていて、今や国政の重要課題の1つになっています。私たちは、国全体の仕組みを動かすため、法律の企画・立案や予算編成など様々な仕事をしています。この間には、財務省への出向や秘書官等の仕事も担当しました。1つ1つの仕事は責任が重大で、大変ですが、その先にこの国



や自分たちの子ども・孫世代の将来がかかっていると思い、日々奮闘しています。

そして、私は今、京都にいます。平成28年4月から、京都府に出向し、障害者支援課長という立場で、約30人の部下と京都府の障害者施策の責任者として、自治体の立場から社会保障に携わっています。国とは違った視点で、現場に近い仕事をいろいろと経験させてもらっています。

日本という国にとって、この10年20年は重要な時期になると思います。公務員として難しい舵取りをしなければいけませんが、少しでも興味をお持ちになれば、是非、国家公務員の門を叩いてください。若い皆さんと仕事ができる日を楽しみにしています。



# 2017年度 進路先一覧

(2018年3月20日現在)

卒業生187名(内女子68名) 進学32(8) 企業84(20)  
公務員54(34) その他17(6)

右欄は女子で内数  
※9月卒業者含む

## 企業

IDOM	1	
JFE スチール	1	
KDDI	1	
NTT ドコモ	1	1
NTT 西日本	1	
TKC	1	
あまた	1	1
旭化成	1	
朝日生命保険	1	
アメリカンファミリー生命保険	1	
イズミ	1	
オービック	1	
大分銀行	1	
オリズン	1	
ガスバル九州	1	
九州電力	2	2
九州旅客鉄道	1	
九電工	2	
熊本日日新聞社	1	1
クリアスライフ	1	
警察共済組合	1	
コンピュータ・アソシエイツ	1	
SKY	1	1
シンカ	1	
新日鐵住金	2	1
住友電気工業	1	
ゼネラルアサヒ	1	
全国共済農業組合連合会	1	1
ソディック	1	
太平電業	1	
大和証券	1	
大和ライフネクスト	1	
大和リビングマネジメント	1	1
竹中工務店	2	
田村駒	1	
帝国ホテル	1	
電源開発	1	
東具	1	
長崎大学	1	1
南国殖産	1	
西日本建設業保証	1	
西日本新聞社	1	1
ニチイ学館	1	

ニトリ	1	
日本銀行	1	
日本経営	1	
日本司法支援センター(法テラス)	1	
日本政策金融公庫	1	
日本生命保険	2	
日本通運	1	
日本放送協会	2	
日本郵便	1	
野村證券	1	
はま寿司	1	1
日立コンサルティング	1	
日立製作所	1	1
フォレストヴィラホーム	1	
福岡銀行	2	1
ふくおかフィナンシャルグループ	1	
富士ソフト	1	1
ブリヂストン	1	1
ミスターマックス	1	
みずほフィナンシャルグループ	1	
三井倉庫九州	1	1
三菱倉庫	1	
三菱総研 DCS	1	
三菱電機	1	
三菱東京 UFJ 銀行	2	1
モードプランニングジャパン	1	
山口フィナンシャルグループ	1	
山本特許法律事務所	1	1
リクルート	1	
リンクアンドモチベーション	1	
リンクイベントプロデュース	1	
三菱総研 DCS	1	
ライブル	1	1
<b>計</b>	<b>84</b>	<b>20</b>

## 公務員

鹿児島地方裁判所	1	1
九州管区行政評価局	1	1
九州厚生局	1	1
九州防衛局	1	1
検察庁	2	2
皇宮警察本部	1	
国税庁	1	

裁判所事務官	1	1
財務省財務局	1	
総務省	2	1
中国四国厚生局	1	1
農林水産省	1	1
広島法務局	1	
福岡高等裁判所	2	1
福岡国税局	2	2
福岡財務支局	1	1
福岡地方検察庁	3	3
福岡地方裁判所	1	
福岡入国管理局	1	1
福岡法務局	1	1
門司税関	1	1
大分県	2	
大牟田市	1	
鹿児島県	1	1
倉敷市	1	
長崎県	2	1
長崎市	2	2
広島県福山市	1	
福岡県	8	1
福岡県警察	2	2
福岡県那珂川町	1	1
福岡市	5	5
山口市	1	1
<b>計</b>	<b>54</b>	<b>34</b>

## 進学

九州大学法学府	6	3
九州大学法科大学院	16	4
九州大学人文科学府	1	
九州大学地球社会統合科学府	1	
大阪大学法科大学院	1	
京都大学法科大学院	1	
神戸大学法科大学院	1	
東京大学公共政策大学院	1	
東京大学法科大学院	1	
同志社大学法科大学院	1	1
早稲田大学法科大学院	1	
明治大学法科大学院	1	
<b>計</b>	<b>32</b>	<b>8</b>

## 編集後記

2017年度卒業生は、箱崎キャンパスの文系大講義室で学位記の授与を受ける、最後の卒業生となります。皆さん、この思い出を胸に、社会の様々な分野へ飛び立って下さい。

2018年度より、ロー・ライブラリー・プロジェクトは、「法学部学修環境基金」と改称します。引き続き、皆様のご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

2018年度より、公務員志望の法学部生のために、インターネット上で公務員試験の勉強を行える、「公務員試験学習システム」(株式会社TKC提供)を、学修環境基金を用いて導入する予定です。詳細は、法学部ホームページ上でお知らせいたします。

法学部ニュース24号より、法学部広報委員会(寺本、上田、本田)が、法学部ニュースの発行を担当いたします。御意見・御寄稿等がありましたら、いつでも下記に御連絡をいただければ幸いです。

法学部研究補助室 (hojyo@law.kyushu-u.ac.jp)